

# 地域おこしのプロフェッショナル 仕事の流儀

vol.3 大樹町 長谷川 彩さん



## ~PROFILE~

大樹町 長谷川 彩(さい) さん

出身：東京都

前職：本のなんでも屋さん（現在も活動中）

趣味：本を読むこと、絵を描くこと、  
お笑いを見ること

## 1 地域おこし協力隊になったきっかけは？

もともとは東京生まれですが、転勤族だったので、京都や山梨など色々なところに住んできました。高校3年生のときに初めて北海道を訪れ、『いつかは住んでみたい』と思うようになりました。なぜ、北海道が良かったかと言うと感覚的なものでしかないのですが、**北欧の環境に似た北海道に憧れがあり、特に道東が好きでした。**

また、せっかく移住するなら、どこかの会社に就職するのではなく、フリーランスとして活動するか、起業したいと考えていたので、その第一歩として、地域おこし協力隊を選び、**地域に溶け込みたいと考えました。**

たくさんある北海道の自治体の中で大樹町に決めた最大の理由は、大樹町の協力隊は特定の業務が決まっているものではなく、自分で課題を見つけてくるフリーミッション型だったためです。

憧れの環境と前職で従事していた大好きな本に関する仕事がマッチした大樹町に今年（2020年）の9月に着任しました。

## 2 日々の活動内容や活動を通じて感じていることを教えてください

東京で、本に関する仕事、具体的には図書館や書店を作るお手伝いを仕事をにしました。それぞれの場所にあった本を選び、本棚を作っていく仕事です。それと並行して本の制作、文章の執筆・編集など、本に関係する様々なこと、「本のなんでも屋さん」をやってきました。

**本は老若男女すべての人が読めるもの、読まれるべきものだと思っています。**

そのため、前職の経験を活かし、町民に本を手にとってもらえる機会を増やす活動をしていきたいと思っています。例えば、大樹高校の図書室は専任の司書がおらず、手付かずの状態が続いていました。そのため、抜本的に蔵書を見直し、様々な仕掛けを用いて高校生にとってもっと居心地の良い場所にしようと活動してい

ます。また、晩成温泉や道の駅といった町内の観光施設、高齢者施設など町のいろんな施設に図書コーナーを作り、町民が本に接する場所を作っていきたいです。その際には、**それぞれの世代にどのように本を差し出したら、面白いものだと思ってもらえるか。それぞれの世代毎にいろんな方に話を聞いて、差し出し方を工夫したいと思っています。**

今までの経験をたよりにすれば、図書室、図書コーナーを作るのはそんなに難しいことではありません。ただ、それでは独りよがりにはかならないと思っています。私は今まで大樹町に所縁の無い人間でしたので、町民の方々との信頼関係が培われなければ意味がないと思っています。**協力隊の仕事は、信頼づくりでもあるので、今までの仕事とは別の意味で難しさを感じています。**

その他にも、「アトリエ ツキミタイニ」（個人で活動する際の屋号）の運営など本を通じた幅広い創作活動や、前号で紹介しましたTOKOMURO.Labの図書スペースの選書なども行っています。



▲大樹高校の図書室。昭和前半の古い本も多い。



▲TOKOMURO.Labの図書コーナー。テーマごとにクラフトカゴに分けられている。

### 3 大樹町の魅力について教えてください。

**自分のやりたいに挑戦させてくれる大樹町が好きです。**

ロケット開発の民間企業インターステラテクノロジズ(株)もあり、「宇宙のまち」として全国的に有名ですが、宇宙産業だけではなく、十勝特有の酪農や農業、さらには漁業も盛んで、海岸部も含めて非常に自然が豊かです。

まちおこしの観点で言えば、いい意味で出来上がっていないところがたくさんあり、これからもっと良くなる余地がある町だと強く感じています。